

エピソード75

登校をしぶる子どもに困ったように
お母さんが付き添ってきます



このエピソードでは、教職
経験35年目の50歳代女性
の先生の経験を紹介します。

なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。



先生は、特別支援教育コーディネーターをされているんですね。

朝の登校指導をしていると、元気に登校してくるこどもたちの中で、登校をしぶり母親に付き添われながら登校する子はめずらしくありません。

クラス替えから数か月、最近になって登校しぶりが始まり涙をうかべながら佳音くんは登校してきました。2年生の男子です。お母さんは困ったように付き添って登校してきます。



お母さんが付き添ってくるんですね。

はい、佳音くんが玄関で立ち止まり入ろうとしないので、「お母さんと一緒に教室へ行ったらいいよ」と言うと、お母さんに見守られながらゆっくりと靴をはき教室へ入って行きました。

玄関へ戻ってきたお母さんに話を聞くと「ここ数日、行きたくない」といって泣くので付き添いながらやっとなつれてくるということでした。お母さんも当然のことながら元気はありません。

担任と佳音くんについて話しましたが、最近の友人関係など登校しぶりにつながる原因はみあたりません。教室に泣きながら入っても、しばらくすると普通に学習に参加して、中休みには友達とすごしています。そこで、佳音くんの様子を見ながら担任と相談して、支援をすることにしました。



どのような支援をされたんですか。

朝は登校の様子を見守り続けながら、お母さんに家庭での様子を聞いたり、登校後の教室の様子を見たりしながら支援することを続けました。



佳音くんの教室での様子から、わかったことがありますか？

佳音くんの様子を見ているとマイペースでゆっくりと丁寧にものごとを進める性格で、少しこだわりがあり適当にやりすごすことができない様子もみられました。そこで、担任は今まで以上に声をかけたり、補助担任などでサポートしながら、自信をもってできることが増えるように関わってきました。



佳音くんのその後の様子を聞かせてください。

佳音くんは少しずつ自信をもって行動することができるようになり、朝の登校しぶりも少なくなってきました。まだお母さんは付き添って登校していますが、佳音くんが元気になるにつれて、お母さんの表情も明るくなってきています。



お母さんが安心できるようになってきているんですね。



なみちちゃんの一言

- 不登校児童のお母さんは心配や不安でいっぱいになっています。先生は子どもの支援はもちろんですが、お母さんが安心できるような声かけをしながら児童のサポートを一緒にしていくという姿勢が大切ですね。
- 若い先生にとって保護者支援は難しいですが、一緒に考えていくというスタンスは保護者との信頼関係を築く上で大切ですね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)